



岩江中だより

第 4 4 号
 発行日：平成 2 8 年 2 月 2 5 日
 発行：三春町立岩江中学校
 電話：0247-62-8290
 FAX：0247-62-8380
 E-mail:school@iwae-jfks.ed.jp

学校経営基本方針『こころ豊かに』～「共に」語り合い、分かち合い、成長する学校～

【岩江教育を語る会開催！～岩江地区の教育について語り合いました。～】

写真は、ごあいさついただく、岩江町づくり協会長宮田様のご様子です。子どもたちを取り巻く岩江の教育環境づくりにご尽力いただき、その中から、やがては岩江地区隆盛の中心となって活躍できる人材を「共に」育てていくことが、今後の岩江の町づくりに大きく関わってくださるといってお考えのもと、一つ一つの活動の積み重ねを大切にしていられたいらっしゃるといってお話をいただきました。2月19日（金）には、会場のいたるところでそのような話し合いがもたれたことと推察いたします。



会場には、武地町教育委員長様、遠藤町教育長様、地元議員のみなさまの他、区長様、民生児童委員様、伊丹岩江センター長様、岩江小・中学校同窓会長様、岩江スポーツ少年団五十嵐代表様、スポ小バスケットボール監督櫻井様、そして、学校関係のみなさんなど、岩江の子どもづくりに大きく関わってくださっているみなさまがお集まりいただきました。

おかげさまで、校長が赴任してから、目に映るだけでも、4本の街灯が追加設置され、非常災害時の電力確保のための太陽光パネルも設置された他、校舎前の道路もツルツルピカピカの道路舗装が着実に伸びており、子どもたちは、地域の方々に見守られる中で、毎日の安心・安全な生活や登下校ができています。これからもどうぞよろしく願いいたします。

【福島県PTA連合会「水俣との交流事業」実施報告会に参加してまいりました。】

2月21日（日）には、希望の虹が空に架かる、福島市の県青少年会館において行われた、県P連平成27年度「水俣との交流事業」実施報告会に、本校伊藤PTA会長様と一緒に参加してまいりました。この交流事業が実際に行われたのは昨年末12月23日（水）から26日（土）にかけてでした。今年度は福島が水俣を訪問する年度であり、県下から39名の中学生が参加しました。現地では、地元の子どもたちとの「熟議」を中心に据えた交流が図られ、かつての水俣病や大震災・原発事故に悩んだふるさとの未来を見据えた活発な議論が行われたそうです。

水俣で起こったことにつきまして、本日より28号の県P二本松大会の特集でお伝えしたとおりですが、この日は遠く熊本からも、熊本県PTA連合会長様もご来県され、ごあいさつの中では特に、「…水俣病公式発表から60年を迎えた。熊本・福島の交流事業は“郷土の再発見のためにスタート”した。…」というお話が印象的でした。

本校からの参加はなかったものの、田村地区の中学生も参加している報告会で、「熟議」や発表、模造紙にまとめられた活動内容等を拝見するにつれ、この交流事業をとおして、福島を支えてくれる人材がたくさん育ってくれることを心より願いました。



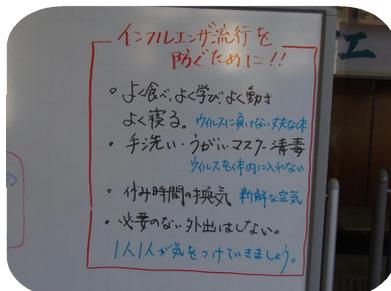
【岩江中学校の教育について考える。～『自立』『真理』『博愛』『健康』『貢献』～】

下の写真は、岩江中学校の校長室にある携帯お預かりボックスと昇降口に設置してある連絡用ホワイトボードの写真です。一見、何の関係もないそれぞれの写真のようですが、ある意味、岩江中学校の教育を象徴するような存在ではないかと考えます。

今の世の中はさまざまな情報があふれ、その中で、私たちも子どもたちも、毎日、直接、間接にその情報から影響をうけながら生活しています。そのあふれかえる情報の中から、より自分や他の人にとって大切と思われる情報を選び出し、一方で、自分や他の人たちにとって有害である

と思われる情報には慎重に関わっていくなど、情報を大切にし、情報を慎重に見極め、自他のために、たくさんの情報の中から有効な情報を取捨選択する力が欠かせない世の中とも言えます。

さらに大切なことは、適切な情報をもとに、正しい判断力のもと、「行動する力」を身につけることです。自他に有効な情報は積極的に活用し、情報化社会に対して自己存在感をもってたくましく生きていく力。有害な情報は、その誘惑に負けずに、自他をコントロールしながら、情報化社会をしたたかに生きていく力を身につけていくことが、よりよい自己実現につながっていきます。お子様の、そして、岩江中学校生徒のめざすべき姿だとは思いませんか。



また、携帯やスマホでお悩みの保護者の方はありませんか。岩江中学校では、届け出をいただいた上で、携帯やスマホを緊急連絡用に持参することは可能となっています。学校に持参できない unnecessaryなもののリストに携帯やスマホを加えて持参禁止してしまえば、それで悩みが解決するかというところではありません。情報(携帯・スマホ)をたくましく、したたかに活用できずに、情報「に」管理され、情報「を」管理できずに、見えないところで隠れて使用する、ゲームをやり放題になってしまう、人の迷惑をかえりみずメール送信する、注意を受けると「ストレス解消なんだよ。」と逆ギレするなどの悩みがあとに続いていきます。

岩江中学校は、そのところを、『**こころ豊かに**』『**共に**』語り合い、分かち合い、成長する学校～なのです。ボックスの中の携帯やスマホは、約束を守って自分を生かし、自分を守ってたくましく、したたかに生きていく道を示してくれています。禁止による指導もある時には必要です。しかし、岩江中学校は、社会の中で、自尊心をもち、自己存在感を感じながら、主体性をもって生きていくためにはどうすればいいのかについて、『**こころ豊かに**』『**共に**』語り合い、分かち合い、成長する学校～をめざしてまいります。決して、手っ取り早くはありませんが。

【2・3年生、最優秀！～『こころ豊かに』三春町選挙啓発書道展に参加しました。～】

三春町明るい選挙推進協議会主催、平成27年度選挙啓発書道展が行われ、町教育長様を審査委員長に審査いただいた結果、本校2・3年生がそれぞれ最優秀賞、1年生が優秀賞をいただきました。結果は以下のとおりです。出品した全校生のみなさん、よくがんばりました。

〈最優秀賞〉	・ 中学3年生の部 齋藤康文
	・ 中学2年生の部 武部優一
〈優秀賞〉	・ 中学1年生の部 矢吹優里

【計画的に進路を見据えて！～船高『デュアル実習』成果発表会に参加してきました。～】

2月23日(火)午後、田村市船引文化センターで行われた、県立船引高校『デュアル実習』成果発表会に参加してきました。県立高校在学時から将来の進路を見据え、学業と職業実習を並行(デュアル)して行うシステムで、高校卒業後の就職率100%を誇る事業だそうです。

生徒のみなさんは、自ら選んだ進路学習への誇りを胸に、実習から学んだことを堂々と発表していました。発表の中には、「コミュニケーション」という言葉がたくさん登場してきました。働くという行為の中で、「コミュニケーション」という視点が欠かせないものであるという証明です。明るく、ハキハキとした受け答え、実習受け入れ企業には必ず「…様」をつけて呼ぶ徹底ぶりでした。人とのコミュニケーションを円滑にとれる力を身に付けつつ、自分の将来を見据え、計画的に学んでいくことの大切さを感じる機会となりました。

